

第1回 豊中市交通バリアフリー推進協議会 議事録 概要版

日 時：平成20年3月27日（木）

AM 10:00～12:00

場 所：市役所 議会棟2階 大会議室

1. 趣旨説明

- ・これまでの経緯と協議会の趣旨について説明を行った。

2. 事業実施状況

- ・各地区の事業実施状況について説明を行った。

3. その他

- ・チェックシステム、工事情報システム、ホームページ、大臣表彰の紹介を行った。

委 員) 平成22年度中に事業が完了すれば、協議会は無くなるのか。解散後も何らかの形で、みんなで考える場は持てないか？

事 務 局) 協議会の趣旨が基本構想に基づくバリアフリー化事業の進行管理であるので、事業が完了すれば協議会も解散となる。この会合をどんな形で継続していくべきかは、平成22年の事業完了時に考えたい。平成22年度までは、このメンバーで協議会を進めていくということで、ご協力をお願いしたい。

アドバイザー) 一昨年末に法律が改正された。そのバリアフリー新法との絡みもあるので、従来の仕組みの完了と同時に新しいものを何か考えた方がいい。

国道事務所) 工事情報案内システムやチェックシステムは、国土交通省をはじめ関係機関に周知されているのか。

事 務 局) これらのシステムは基本構想策定段階で出来ており、国土交通省にもその委員会に参加頂いた。工事をする際には情報を寄せてくださるようお願いしているし、チェックシステムについても、積極的な利用をお願いしている。なお、案内システムについては、工事を実施する際は必ず市に知らせて下さいとしているが、チェックシステムは任意であり、事業者が障害者の意見を聴きたいという際には利用頂くという考え方でやっている。

アドバイザー) 任意とはいえ積極的にチェックを受けてもらうのが、この協議会の趣旨であるので、気持ち

としては条例や要綱に準じるものと思っている。そのあたりを事業者の方にもくんで頂きたい。

委員) 服部駅では、スロープが狭いため一般の方がスロープを使っている間は車いすが通れない。階段をなくして全部スロープにできないのか？

阪急電鉄) 階段は現状のままで、既存のスロープの傾斜を緩やかに改良する予定。全体をスロープにし、傾斜を緩やかに改良すると、電車が止まる部分よりも先にスロープの先端がくる事になる。

委員) 幅広改札口をスロープから直進できる位置に変えられないか。

事務局) 以前からそのご意見はあり、阪急とも協議したが補助採択等、金銭的な面で難しい。平成 22 年度以降検討していきたい。

委員) 曾根駅前の音響信号機の設置は 3 月までに完了と聞いたが、まだか。

豊中警察) 工事が遅れている。平成 19 年度事業なので、近々設置予定である。

委員) 服部駅のホーム内に電光掲示板がないのはどうしてか。

阪急電鉄) 情報案内提示の検討をしている。平成 20 年度中に工事予定である。

アドバイザー) 豊中市は先進的に基本構想を策定し、事業実施に取り組んでいるが、新法に伴う基本構想の見直しはするのか。見直しとまではいかなくても、各建築物等のバリアフリー化状況を調査・報告する取り組みをされてはどうか。

事務局) 基本構想を見直す予定はない。駅周辺で民間のビルも含めてバリアフリー化が必要な千里中央駅地区においては、商業施設の方にも参加頂き、構想を策定した経緯もある。次回は平成 20 年度秋頃開催予定。

以上